



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

EFPIA Japan 患者団体支援プログラム「PASE」

第7回 PASE AWARD 受賞団体活動報告書

一般社団法人欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan 会長：岩屋孝彦）は、2024年9月に決定しました「第7回 PASE（Patient Advocacy Support by EFPIA Japan）AWARD」の受賞団体より、活動報告書を受領しました。

PASE AWARD は、日本の患者団体活動の活性化を促し、患者さんの声を適切に医療制度に反映されることで患者さんを取り巻く医療環境がより良いものに発展していくことを目的に、EFPIA Japan が 2017 年より実施しているプログラムです。

各受賞団体の素晴らしい活動内容をより多くの方々に知っていただく機会と考え、ここに活動報告書を公表させていただきます。

第7回 PASE AWARD 受賞団体

受賞団体名	受賞した実施計画
認定特定非営利活動法人 希望の会	SDM 推進と QOL 向上ための国際連携
強皮症患者会 Linkage	受診の困りごとをこの 1 冊で解決！ ～SDM に役立つ「強皮症受診ガイドブック」
特定非営利活動法人 膠原病・リウマチ・血管炎 サポートネットワーク	小児膠原病をもつ子どもが安心して毎日を送るために ～学校に絵本を届けるプロジェクト
特定非営利活動法人 パンキャンジャパン	成人発症型糖尿病患者と膵臓癌早期発見啓発プログラム 医療セミナー「膵臓がんと成人発症型糖尿病」の開催
一般社団法人 ピーベック	患者の食事に関する困りごとを可視化し啓発に繋げる 「一緒にいただきますプロジェクト」のキャンペーン展開

EFPIA Japan 患者団体支援プログラム「PASE AWARD」について

EFPIA Japan は、患者団体との協働や交流を通じて、患者さんのニーズや政策提言を社会に発信する機会と活動をサポートしています。PASE（Patient Advocacy Support by EFPIA Japan）AWARD は、日本の患者団体活動の活性化を支援する目的で、2017 年に設立されました。PASE についての詳細はリンクをご参照ください。

<http://efpia.jp/pase/index.html>

欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）について (<http://efpia.jp/>)

2002 年 4 月に設立された EFPIA Japan には、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業 24 社が加盟しています。2024 年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約 29.4%を占めています。EFPIA Japan の使命は、“革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献すること”です。EFPIA Japan は日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。

第7回PASE AWARD報告書

2025年7月15日

認定NPO法人希望の会

轟 浩美

目的: • 正確な理解のための教育、患者家族支援という共通の目標に向かって各国の力を結集する
• 誰もが適切な治療に繋がるため、国際連携のもと最先端のリソースや支援を提供する

活動: • 治療について日本語、英語版で医療者による解説動画作成
• 既存のコンテンツを翻訳し、患者家族の知る機会を増やす
• 治療選択、QOL向上への意識が高まる国際交流の場を継続開催する。

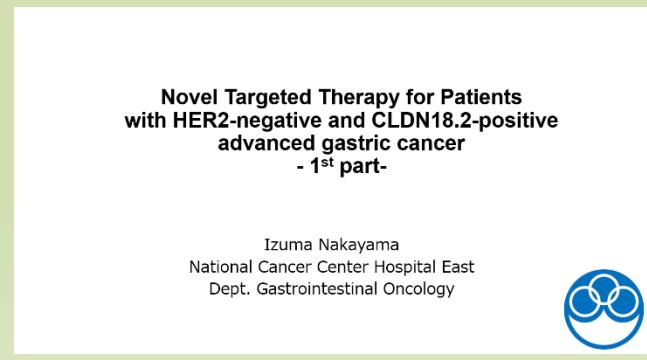
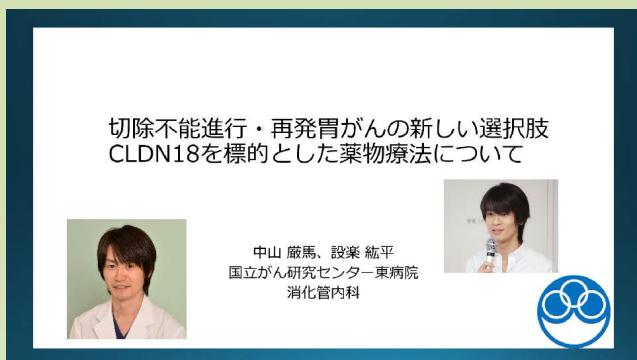
1. 背景

国際的な協働の機会が増える中、各国が患者家族支援、情報提供、患者アドボケート人材教育等同じ目標に向かっていることを実感。誰もが納得の治療選択、QOLの向上に繋がるよう、国際的に連携していくことは令和4年度のPASE AWARD受賞が基盤となって進められている。

情報取得、医療者と対話する機会に国際間で差があることを認識。胃がんに対する正確な理解、患者家族支援という共通の目標に向かって各国が取り組む力を結集し、補い合い、誰一人取り残さない世界を目指したい。治療の最新情報、QOL向上支援、納得の治療、人生の選択に繋がるSDMを連携し推進していくことが必要であると考えた。

2. 方法

胃癌領域の新薬作用機序について日本語、英語版で医療者による解説動画を作成し、誰もが視聴できる配信を開始する。今後、同様な動画作成の他、既存のコンテンツの翻訳字幕もしくは吹き替え版を作成し、言語の壁を超えて「知る」機会を増やし、情報格差を解消。患者家族の治療、人生の選択の根拠と意識向上を目指すものとする



胃がん治療領域の新薬の作用機序をまず日本語動画として作成。
その翻訳をがん医療翻訳専門団体に依頼

3. 発展的取り組み

当初、字幕翻訳でのコンテンツ共有を考えていたが、8本の動画をまとめて翻訳するにあたりがん医療翻訳専門団体から吹き替えの提案を受け、8本を吹き替え版として作成した。経費を抑えるために、一回で全ての動画の吹き替えを行った。そのための準備に時間要したが、サブタイトルで動画を視聴するよりも、視聴しやすい動画となつたと感じており、今後もこの方法で動画の吹き替えを増やしていきたいと考えている。

元動画のアニメーションがとてもよく整理された内容であり、日本での啓発に関しても気づきをいただく機会となった。

動画掲載ページ

<https://youtube.com/playlist?list=PLofzsUj8RTDRwjZLptM9jeaKGJA40rJGC&feature=shared>

The image shows a screenshot of the Debbie's Dream Foundation YouTube channel. The channel header reads "Debbie's Dream Foundation: Curing Stomach Cancer". Below the header, there is a banner for "Spring Meals for the Stomach Cancer Patients". The main content area displays several video thumbnails, each with a Japanese title and a small thumbnail image. To the right of the channel interface, there is a graphic for "KIBOUNOKAI" which is described as a "Certified non-profit organization" and an "Affiliate of Debbie's Dream Foundation: Curing Stomach Cancer".

4・成果

各国の文化、教育の背景が、shared·decision·makingへの考え方に対する影響を与えており、お互いに実感し、協働で啓発、発信に取り組む重要性を確認した。

吹き替え版で動画を作成したことは、視聴者の言葉の壁への負担を下げた。

5. 今後に向けて

第7回PASE AWARDのおかげで進められた共同発信は、教材だけではなく、患者家族はもちろん医療者の国際協働、国際交流の場への視野を広げることになった。

これを受けて、令和7年11月15日に、がん研有明病院吉田講堂にて、国際患者向け胃がんシンポジウム開催が決定し、ハイブリッド開催ながら、アメリカからは患者支援団体、韓国からは医療者が来日することとなった。

医療者と患者家族の率直な意見交換を言葉の壁の負担を取り除くことで、患者家族からの発信の力を感じる場としていきたい。この件については第8回PASE AWARDにエントリーをしている。

第7回 EFPIA Japan 患者団体支援プログラム「PASE」

PASE AWARD（ペースアワード）助成金による活動報告書

強皮症患者会 Linkage 代表 桃井里美

1. 活動名：

受診の困りごとをこの1冊で解決！～SDMに役立つ「強皮症受診ガイドブック」

背景：2024年6月、LINEオープンチャット「強皮症患者さんのピア相談室」で実施したアンケートでは多くの患者が受診で困りごとを抱えており、回答者の半数が「治療に満足していない」と回答していた。治療満足度の低さは不安の蓄積となり患者のQOL低下に直結するので、これを解決するために受診ガイドブックを作成した。

2. 活動の取り組みの経過

- | | |
|-----------|---|
| 2024年8月 | ガイドブック作成班設置。モニター募集、内容構成、体験談募集の相談 |
| 8月29日 | 監修を依頼した藤本学先生（阪大皮膚科）とのミーティング① |
| 9月20日 | 藤本学先生とのミーティング② |
| 11月29日 | Webセミナー①麦井直樹先生（金沢大病院）「強皮症のリハビリ」 |
| 12月17日 | Webセミナー②藤本学先生
「強皮症の受診の仕方～治療方針を決める場面のロールプレイ～」 |
| 2025年2月3日 | |
| | Webセミナー③嶋良仁先生（阪大）「診療ガイドライン2025の解説」 |
| 4月17日 | Webセミナー④山口由衣先生（横浜市大病院）「強皮症の皮膚症状」 |
| 5月15日 | Webセミナー⑤高橋裕樹先生（札医大病院）「強皮症の関節症状」 |
| 6月 | 受診ガイドブック2300部印刷（写真左）。皮膚科学会で配布（写真中央）。
希望者に無料配布 Linkage のHPで公開。
ダウンロード可。医療機関へ紹介・配布。 PDFファイル(4.4 MB) |





↓ 合同医療講演会内容一覧

1. ご挨拶
(嶋 良仁先生 (阪大) / 岸井 伸一先生 (東京大))
本日の内容
<ul style="list-style-type: none"> ● 全身性強皮症の初発症状から受診まで 稲田 郁子 先生 (大阪大学) ● 全身性強皮症 治療別別法と標準治療～問診と筋炎を中心～ 安岡 秀利 先生 (仙台医科大学) ● 全身性強皮症に伴う呼吸困難との対応 渡邊野 裕 先生 (東京大学) ● 全身性強皮症の新規治療 佐田 伸一 先生 (東京大学) ● 全身性強皮症受診ガイドブックの活用 稲井 里美 様 (強皮症患者会 Linkage 代表)*

3. 活動の成果

- Webセミナーは毎回100人以上のライブ視聴、アーカイブを含めると合計4000人以上の視聴。
- 全国各地で開催したピアカフェ（患者交流会）は1年間で25回、のべ271名の参加。対面によるピア・サポートを行い、受診ガイドブック配布。
- 2025年9月にオンデマンド配信される厚生労働省自己免疫疾患研究班・全身性強皮症研究班合同医療講演会の全身性強皮症のパートでLinkage代表が「強皮症受診ガイドブックの活用」について講演。周知を図る。

4. ガイドブック作成の成果：患者、医療者から寄せられた感想に手ごたえを感じる

【患者さんからの感想】

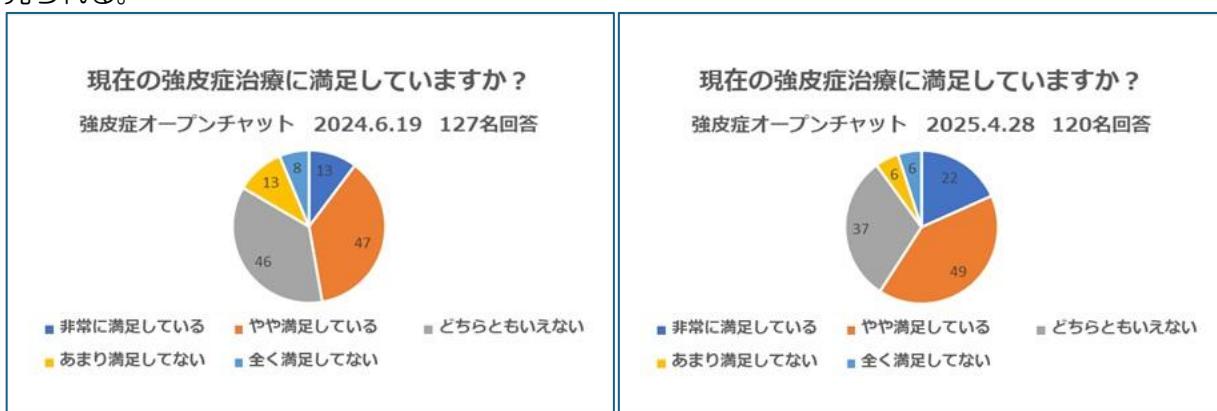
- 丁寧に分かりやすく詳細な説明があり、体験談も他人事ではなく「ガイド」の名にふさわしい内容で、多くの新たな仲間に力強い援護となる。
- 自分に今必要なことが抜け落ちていたことに気づいた。受診で改善すること、医師とのやり取りの仕方がチェックできて感動している。納得のいく治療に繋げて行ける様、今後の受診に活用したい。
- レ点チェックのお陰で受診時のメモ書き忘れ防止になる。自ら先生との対話ができるきっかけになり、検査にも繋がった。
- 初診の際、問診票への書き込みがスムーズに出来た。病気と共に存して生きていく生き方の道しるべになった
- 医師に不安な気持ちや聞きたいことをうまく伝えることができなかつたので、受診ガイドブックの内容が大変参考になった。自分にあった治療方法を探して行きたいと思った。

【医療者からのコメント】

- 内容がとても分かりやすく、患者さん方が普段心配されていることが沢山記載され、患者さんだけでなく医療者にとっても大変有用なガイドブックです。
- 大変わかりやすいガイドブックですので、道内の強皮症関連施設に紹介させて頂ければと思います⇒150部を道内で配布。宮城県内でも100部配布。
- とても内容が充実し、かつ分かりやすく、使いやすいと思いました。早速、当院の患者さんにも使用させていただけすると幸いです。

【満足度調査の結果変化】

5回の患者向けWebセミナーが終わった時点で行ったアンケートでは、「非常に満足」「やや満足」層が増えている。セミナーを通して積極的に主治医に働きかけるなどの意識変容・行動変容が見られる。



5. 今後の展望

受診ガイドブックを使いこなし、納得のいく治療につながるように、2025年10月公開予定の「診療ガイドライン準拠のQ&A集」とセットで周知を図っていきたい。今後のWebセミナーではSDMをテーマに取り上げ、来年度はQ&A集活用ガイドの作成に取り組む。患者自ら診療ガイドライン周知の役割を担うとともに、次期ガイドライン作成にも関わり、研究班との協働関係を推進していきたいと考える。

事業報告書

特定非営利活動法人
膠原病・リウマチ・血管炎サポートネットワーク
代表理事 大河内範子
作成日 2025年11月15日

1 事業名 小児膠原病をもつ子どもが安心して毎日を送るために ～学校に絵本を届けるプロジェクト

解決したい課題

- ・治療生活だけでなく学校生活においても、子どもと保護者に心理的負担がかかっている現状
- ・子どもの通う学校や、お友だちに対して、小児膠原病について理解を促すことが難しい現状
- ・小児膠原病をもつ子どもに適した配慮のノウハウを学校側が知らない現状

2 事業内容

インドネシアの患者団体が制作した絵本を日本語に翻訳し、子どもが所属する学校に寄贈する。

3 活動期間

開始 2024年10月
終了 2025年 9月 繼続

4 実施した活動

1)絵本の制作

日時：2024年10月～2025年4月

活動内容：成人期を迎えた小児膠原病患者、心理専門家の助言を受けて翻訳

2)絵本の寄贈

日時：2025年5月～現在

内容：保護者、教員、養護教諭、図書館司書、スクールカウンセラーなどを通じて絵本を寄贈

3)絵本を活用した小児膠原病の啓発

①高校生の国際交流

日時：2025年4月23日

活動内容：日本とインドネシアの高校生が、絵本完成を報告するビデオメッセージを交換

②全身性エリテマトーデス(SLE)啓発デー

日時：2025年5月10日

活動内容：ウェブセミナーおよび現地交流会で絵本完成を報告・配布

③日本リウマチ看護学会、日本小児リウマチ学会

日時：2025年6月21日～6月22日、10月10日～10月11日

活動内容：団体ブースを出展し、医師・看護師・関連団体に絵本完成報告・配布

④各地「膠原病の交流会」

日時：2025年5月10日～現在

活動内容：関東、近畿、四国、中国、九州で開催する「膠原病の交流会」での告知・配布

⑤HP、SNS、ニュースレター

日時： 2025年5月10日～現在

活動内容：団体に登録しているメンバーに向けたニュースレターを通して周知。

HP・SNS を通して一般に向けた周知・啓発。

5 今後の課題

より多くの方に絵本を届け、膠原病に興味を持っていない一般の方に周知を拡大する必要がある。
このため、団体内や専門家の集まる場だけでなく、オンラインを活用して継続的に啓発を行う。

6 活動の様子



2025年4月
各国の高校生が
ビデオレターを通して完成報告



2025年5月～
各地交流会で
絵本完成報告・配布



2025年5月～
絵本寄贈をSNS・HPで報告



2025年6月、10月
学会ブースで絵本完成報告・配布

完成した絵本が啓発の原動力となり、啓発の輪が生まれました。
ご支援くださったすべての皆様に感謝申し上げます。



令和 6 年度 PASE AWARD 事業報告書

団体名：特定非営利活動法人パンキャンジャパン

理事長：眞島 喜幸

対象疾患：膵臓がん／膵・消化管 NET／胆道がん など（団体活動領域）

作成日：2025 年 12 月

1. 事業名

「ハイリスクの糖尿病にフォーカスした日本で初めての膵臓がんの早期発見セミナー」（PASE AWARD 受賞プロジェクト）

2. 背景・目的

膵臓がんは早期発見が難しく、予後の改善が喫緊の課題です。50 歳以上で新規に発症する糖尿病（成人発症型）は、膵がんのリスク因子であると同時に初期徵候である可能性が指摘されています。糖尿病患者・予備群がリスクを正しく理解し、適切なスクリーニングにつながる行動を促すことを目的とします。

3. 事業内容（計画）

- 専門セミナーの開催：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」をテーマに、医師・患者会が連携して実施。
- 最新研究の発信：2024 年の学会等で発表された知見を、平易な資料・講演で共有。
- 連携強化：糖尿病領域の専門家・関連学会・医師会と協働し、リスク認識と受診導線を強化。

4. 期待される成果（当初計画）

- リスク認識の向上（糖尿病と膵がんの関連理解）
- 早期スクリーニング実施率の向上
- 早期診断により手術適応となる患者の増加
- 予後の改善に資する患者行動の変容（相談・受診・専門紹介）

5. 準備状況・進捗（時系列）

- 7/24：企画会議（Julie Fleshman 氏、正宗淳先生）。市民公開講座での発表を依頼。
- 7/25 正宗淳先生のビデオ講演の事前収録を打診 → APA2025（11/12-15, San Diego）での最新データ発表後を希望との返答。
- 7/26：日本膵臓学会 学術集会「PanCAN Award セッション」にて、JulieFleshman 氏が AOD と PDAC に関する基調講演（15 分）。
- 8/24：第 56 回日本膵臓学会市民公開講座は 2026 年 2 月 15 日開催に決定（会長要望）。

令和 6 年度 PASE AWARD 事業報告書

団体名：特定非営利活動法人パンキャンジャパン

理事長：眞島 喜幸

対象疾患：膵臓がん／膵・消化管 NET／胆道がん など（団体活動領域）

作成日：2025 年 12 月

1. 事業名

「ハイリスクの糖尿病にフォーカスした日本で初めての膵臓がんの早期発見セミナー」（PASE AWARD 受賞プロジェクト）

2. 背景・目的

膵臓がんは早期発見が難しく、予後の改善が喫緊の課題です。50 歳以上で新規に発症する糖尿病（成人発症型）は、膵がんのリスク因子であると同時に初期徵候である可能性が指摘されています。糖尿病患者・予備群がリスクを正しく理解し、適切なスクリーニングにつながる行動を促すことを目的とします。

3. 事業内容（計画）

- 専門セミナーの開催：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」をテーマに、医師・患者会が連携して実施。
- 最新研究の発信：2024 年の学会等で発表された知見を、平易な資料・講演で共有。
- 連携強化：糖尿病領域の専門家・関連学会・医師会と協働し、リスク認識と受診導線を強化。

4. 期待される成果（当初計画）

- リスク認識の向上（糖尿病と膵がんの関連理解）
- 早期スクリーニング実施率の向上
- 早期診断により手術適応となる患者の増加
- 予後の改善に資する患者行動の変容（相談・受診・専門紹介）

5. 準備状況・進捗（時系列）

- 7/24：企画会議（Julie Fleshman 氏、正宗淳先生）。市民公開講座での発表を依頼。
- 7/25 正宗淳先生のビデオ講演の事前収録を打診 → APA2025（11/12-15, San Diego）での最新データ発表後を希望との返答。
- 7/26：日本膵臓学会 学術集会「PanCAN Award セッション」にて、JulieFleshman 氏が AOD と PDAC に関する基調講演（15 分）。
- 8/24：第 56 回日本膵臓学会市民公開講座は 2026 年 2 月 15 日開催に決定（会長要望）。

- 11/26：急遽、都合がつなかくなった正宗教授の代替として東北大学病院消化器内科の滝川哲也先生による講演を収録。
- 11/28: 正宗教授の推薦により、国立がん研究センター中央病院 糖尿病腫瘍科の大橋 健先生に糖尿病と膵臓がんについてご講演いただくこととなった。
- 12/26（金）：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」について、糖尿病内科医の視点から大橋健先生にご講演いただいた。
- 12/27（土）：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」Youtube セミナーを開催した。

6. 中間成果（現時点）

- 登壇者調整・最新データ反映の見通しが立ち、講演コンテンツの質を担保。
- 会期延期により、2024年学会知見+APA2025の更新を反映した最新版での実施が可能に。
- 市民公開講座（延期分）と連動し、継続型の啓発導線（動画）を整備中。

7. 次期実施計画とKPI（動画配信後6か月後の評価）

- 実施：12/27（動画配信）
- 参加KPI：オンライン200名目標
- 認知KPI：動画再生回数：400回以上目標

8. ガバナンス・透明性

- PASE AWARDの実施期間・報告要件（～2025/9/15実施、～2025/9/30報告提出であったが、～2025/12/27実施、～2025/12/27報告提出）となる。

9. 参考・添付

- PASE AWARD 応募要項：/mnt/data/Final_2024_PASE_AWARD.pdf
- 受賞プレゼン資料（PPT）：/mnt/data/PASE2024_PanCANJapan20240815_FS.pptx
- 報告書サンプル（体裁参考）：/mnt/data/sample_Pace賞大賞受賞事業報告書.docx

- 11/26：急遽、都合がつなかくなった正宗教授の代替として東北大学病院消化器内科の滝川哲也先生による講演を収録。
- 11/28: 正宗教授の推薦により、国立がん研究センター中央病院 糖尿病腫瘍科の大橋 健先生に糖尿病と膵臓がんについてご講演いただくこととなった。
- 12/26（金）：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」について、糖尿病内科医の視点から大橋健先生にご講演いただいた。
- 12/27（土）：「糖尿病と膵臓がんの危険な関係」Youtube セミナーを開催した。

6. 中間成果（現時点）

- 登壇者調整・最新データ反映の見通しが立ち、講演コンテンツの質を担保。
- 会期延期により、2024年学会知見+APA2025の更新を反映した最新版での実施が可能に。
- 市民公開講座（延期分）と連動し、継続型の啓発導線（動画）を整備中。

7. 次期実施計画とKPI（動画配信後6か月後の評価）

- 実施：12/27（動画配信）
- 参加KPI：オンライン200名目標
- 認知KPI：動画再生回数：400回以上目標

8. ガバナンス・透明性

- PASE AWARDの実施期間・報告要件（～2025/9/15実施、～2025/9/30報告提出であったが、～2025/12/27実施、～2025/12/27報告提出）となる。

9. 参考・添付

- PASE AWARD 応募要項：/mnt/data/Final_2024_PASE_AWARD.pdf
- 受賞プレゼン資料（PPT）：/mnt/data/PASE2024_PanCANJapan20240815_FS.pptx
- 報告書サンプル（体裁参考）：/mnt/data/sample_Pace賞大賞受賞事業報告書.docx

第7回 PASE AWARD 助成金による活動報告書

一般社団法人ピーペック

代表理事 宿野部武志

担当：大村詠一

1. 活動計画名

患者の食事に関する困りごとを可視化し啓発に繋げる「一緒にいきますプロジェクト」の
キャンペーン展開

2. 活動目的

- 外食における栄養成分表示の不足や設備面など、病気や障害をもつ人が抱える食事上の困難を把握し、解決に向けた取り組みを推進する。
- 病気や障害のある人も、家族や友人と安心して楽しく食事ができる社会の実現を目指す。
- 当事者や支援者の“こえ”を可視化し、飲食店や社会全体との対話を促すことで、生活の質(QOL)向上とセルフマネジメントの推進につなげる。

3. 活動内容

プロジェクトのInstagram (https://www.instagram.com/honネpost_itadakimasu/) で週1回程度の発信を継続するとともに、アンケート調査ならびに対面イベントを実施した。

＜アンケート調査＞

方法：Google フォームによるオンライン調査

期間：2024年11月1日（金）～12月31日（火）

対象：病気や障害をもつ人・その家族・支援者（代理回答含む）

回答数：250名（代理回答43名含む）

＜対面イベント＞

日時：2025年7月9日（水）

場所：三井ガーデンホテル柏の葉パークサイド

イベント名：病気をもつ人と考える「やさしい食と空間」試食＆体験イベント

プログラム構成：ホテルの施設見学、ランチ体験、座談会

参加者：患者・家族・医療福祉関係者・接客業関係者・支援者 約10名

※当初の大規模イベント開催予定を変更し、小規模イベントで参加者の満足度向上に努め、

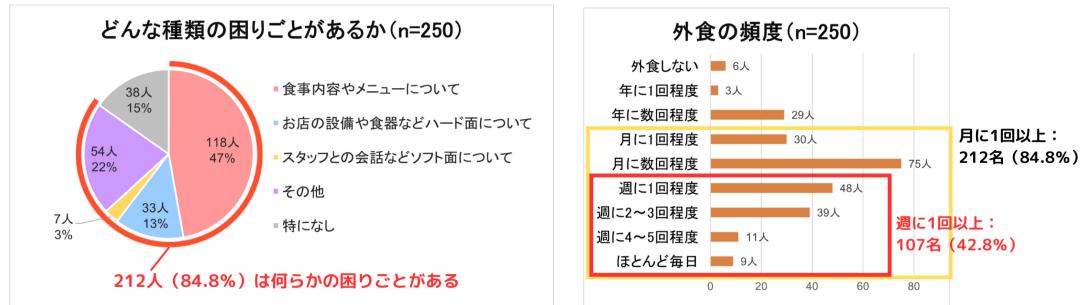
取り組みやアンケート結果をより多くの方に周知するため、SNS配信を積極的に活用した。

4. 活動による成果

＜アンケート調査＞ 報告記事：<https://ppecc.jp/activity/post/000557/>

- 250名の回答のうち84.8%が外食に何らかの困りごとを抱えているにもかかわらず、42.8%が週1回以上外食しており、外食が生活に欠かせない習慣であることを示した。
- 困りごとの55.6%が「食事内容・メニュー（栄養成分表示など）」に起因し、続いて「設備や食器などハード面」「スタッフ対応などソフト面」の課題も確認された。

- 糖尿病や腎臓病などの異なる病気をもつ人々に共通する困りごと（例：栄養成分の表示不足、提供される量の多さ、消化配慮の欠如など）が多く認められた。
- 「声を上げないと困りごとがないように見られてしまう」「他者の工夫を知りたい」といった回答者の声が、可視化の意義と共感の重要性を裏付けた。
- 一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会（JPA）よりメルマガでご紹介いただいた。
<https://nanbyo.jp/tusin/357.pdf>



<対面イベント> 報告記事：<https://ppecc.jp/activity/post/000580/>

- 施設見学：オストメイト対応トイレや丸みのあるテーブル、車椅子対応の入口、体重計・プルトップオーブナーの常設など、細やかな配慮が施された物理的環境が体験された。参加者からは「配慮を考えてくれる姿勢を感じられた」との声が上がった。
- ランチ体験：大腸がん患者向けの配慮がなされた創作フレンチを試食。「薄くスライスされた野菜による消化配慮」「見た目・食感の工夫」「薬の飲みやすさにも配慮された水の提供」など、質の高い調理とサービスが体験され、高く評価された。
- 座談会：「異なる困りごとを知れた」「ホスピタリティは対話から生まれる」といった参加者の声により、対話の場としての意義と多様な視点の共感が確認された。
- 総括：本イベントは、病気や困りごとがあっても安心して食事や旅行を楽しめる社会へ向けた具体的な一歩となり、「思いやりのシンプルさ」が、合理的配慮や対話による共創の基盤になるという気づきを参加者にもたらした。
- 株式会社三井不動産ホテルマネジメントよりプレスリリースを出していただいた。
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000160.000084468.html>



5. 今後に向けて

アンケートとイベントから得られた気づき、そして、寄せられた“こえ”は、社会的価値を持ち、病気や障害をもつ人も安心して食事ができる環境のためには今後も飲食店などのサービス提供者を巻き込んだ対話が必要であり、その先に誰もが楽しく食事ができる社会の実現があると感じられた。今後は、Instagramでの発信に加えて、当法人のウェブサイトや当プロジェクトのSNSなどを通じて、当事者の工夫や、飲食店・宿泊施設などの取り組み事例とともに、寄せられた“こえ”を紹介していく。また、外食に限らず家での食事・テイクアウトの課題などにも視野を広げ、飲食店へのヒアリングや座談会など、対話と実践の場をさらに展開していきたい。